

水稻品種「だて正夢」の栽培法

作物栽培部 水稻チーム TEL:0229-26-5108



研究の目的

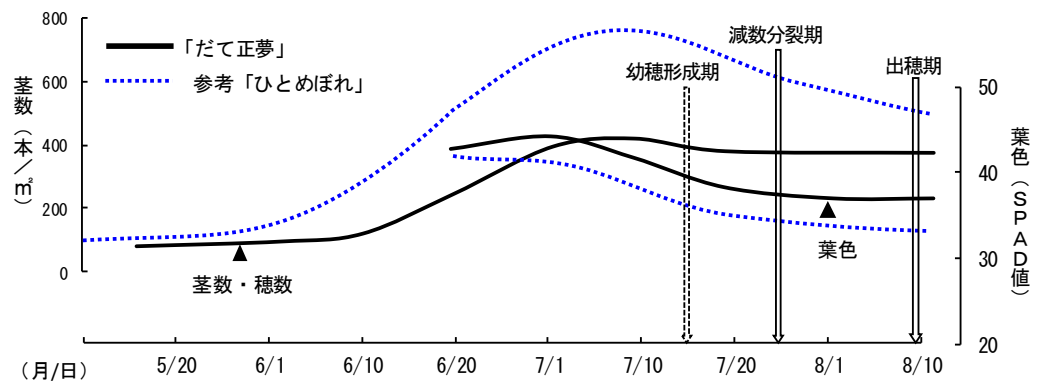
平成28年に宮城県の奨励品種となった「だて正夢」は、炊飯米の味が良く、粘りがあり、食味は「ひとめぼれ」より優れます。また、「ひとめぼれ」より倒伏しにくく、冷害への強さは「ひとめぼれ」と同等です。これらの特性を活かし、収量を確保しながら品質の高い「だて正夢」を生産するための栽培法を確立しました。

研究成果

「だて正夢」は、「ひとめぼれ」よりも茎数の増加が極めて緩やかで、葉色が濃く推移するという特徴があります（図）。

10a当たり540kgの収量を得るためには、 m^2 当たりの穂数350～400本、籾数3万～3万4千粒が目安となります。また、この適正籾数を実現することで、倒伏や登熟歩合の低下が起りにくくなります。

そのためには、土づくりを実践したうえで、基肥は「ひとめぼれ」並とし、5月中旬に坪当たり60～70株とやや密に移植します。表の生育量を目安として減数分裂期を中心に追肥を行うことで、玄米の品質が向上します。



図「だて正夢」の生育イメージ

表「だて正夢」の生育量を目安

項目	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
	7月15日頃	7月25日頃	8月10日頃
草丈 (cm)	64 ~ 70	76 ~ 82	-
茎数・穂数(本/ m^2)	390 ~ 460	380 ~ 420	350 ~ 400
葉色 (SPAD値)	40 ~ 42	37 ~ 39	35 ~ 37
主茎葉数 (葉)	10.0 ~ 10.8	11.4 ~ 12.2	12.5 ~ 13.0

利活用の留意点等

ここで示した生育量を目安は、平成28～30年に古川農業試験場での栽培試験の結果によるものです。なお、「だて正夢」を作付けするためには事前の登録が必要となりますので、希望される方は最寄りの農業改良普及センターまたは県庁みやぎ米推進課までお問い合わせ下さい。

より詳しい内容は「普及に移す技術」第94号(平成31年4月発行)
「水稻品種「だて正夢」の栽培法」をご覧ください。

http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/94hukyuugijutsu1.html

